

第 34 期 事業報告

〔 自 2022 年 4 月 1 日
至 2023 年 3 月 31 日 〕

株式会社NHKエデュケーショナル

I 会社の現況に関する事項

1. 事業の経過及びその成果

(1) 当社を取りまく環境と成果

「学びの新しいカタチの創出」を掲げた中期経営計画 2021-2023 の 2 年目となる今期、NHK エデュケーショナル(以下 NED)は、「新しい NHK らしさ」の実現に向けたコンテンツの強化と展開に取り組みました。広くあまねく、そして多様な方法で「学び」の機会を届け、「いつでも、どこでも」学べる「場」を提供し、「学びの新しいカタチ」の創出を推進しました。

NED は、2022 年 12 月 1 日に設立された株式会社 NHK メディアホールディングスの傘下子会社となりました。各社との連携を進め、より専門性を発揮するとともに、業務の効率化を進め、株式会社として適正な利益を上げ、持続可能な体制を構築するための様々な施策の準備に取り掛かりました。

コンテンツ制作では開発番組の提案と制作を強化しました。今期は 50 を超える開発番組を制作(総本数は 130 本超)し、16 の番組が来期の定時番組として採用されました。

次世代の“学び”を支える「NHK for School」の利用率向上に向けて、デジタルと放送の両面で行いました。教員向け WEB コンテンツ「GIGA サポ」や 8K コンテンツをマルチユースするデジタル教材を制作しました。放送では、「NHK for School」のコンテンツを授業に活用した実例を紹介する番組や、多彩な教科番組をマルチユースした番組などを制作し、ファミリー層にも「NHK for School」の存在を広くアピールしました。

地域でのタッチポイント強化にも取り組みました。地域放送局などでの公開収録やミニイベントなどの実施数は 100 を超えました。子ども向け新番組では NHK の視聴者局とも連携したロケを 50 か所以上で実施しました。また、番組連動の出前授業が NHK の「2023 年度リレカツ」のメニューになるなど、若年層への訴求に貢献しました。

新規自主事業の開拓および NHK グループ間の連携による新規合同事業にも取り組みました。外部企業が展開するアプリへのコンテンツ提供や、配信事業者への独自音声コンテンツの提供を NHK グループ内で連携し、実施しました。また、展博事業の多角化と新たな展開手法の開発にも取り組みました。

「大型リアルイベント」では、「おかあさんといっしょスペシャルステージ」を 3 年ぶりに開催しました。「超体験 NHK フェス」では、独自企画や演出で NHK コンテンツの魅力を幅広い年齢層の来訪者に伝えました。また、オンラインでのイベントも新規のサービスを開拓し、視聴者満足度の向上に寄与しました。

デジタル分野での NHK コンテンツへの接触向上にも取り組みました。番組と連動したサイトや自主事業で開設しているサイトでは、試行錯誤と改革を進め、その成果を来期の事業で発展させていきます。コーポレートサイトの充実による商談件数も着実に増加しており、さらにブラッシュアップしていきます。

株式会社として着実な事業継続のための利益を確保できるよう、コストのスリム化と効果的な管理会計の導入にも取り組みました。様々な固定費を見直し、収支構造を改善しました。また、次期 ERP の導入を見据えて、管理会計の方法を検討すると共に、社内教育に注力しました。

NED のサービスの根幹を支える人材の育成も継続的に取り組みました。社内の様々な育成施策や NHK、NHK グループ間の出向や派遣など、制作力・開発力・マネジメント力強化の施策は着実に成果を上げました。

コンプライアンスの徹底、ガバナンスの強化、業務の高度化・適正化にも取り組みました。そのための体制や仕組みの整備は継続して適宜実装して行きます。同時に、一人ひとりのマネジメント力の向上に向けて、様々な勉強会を適宜実施しました。

(2) 損益の状況

当期の売上高は、228 億 26 百万円となり、前期比 6.8%増、14 億 54 百万円の増収となりました。売上原価は、211 億 20 百万円となり、前期比 6.0%増、12 億 1 百万円の増となりました。販売費及び一般管理費は、12 億 6 百万円でした。

損益については、営業利益 4 億 98 百万円、前期比 173.3%増、3 億 16 百万円の増益となりました。

営業外損益を加えた経常利益は、6 億 55 百万円で、前期比 84.8%増、3 億円の増益となり、これに特別損益及び法人税等を加減した当期純利益は、9 億 78 百万円、前期比 331.4%増、7 億 51 百万円の増益となりました。

(3) 事業別の概況

【事業別売上高】

(単位:百万円)

区分	第 34 期 (2022.4.1～2023.3.31)		第 33 期 (2021.4.1～2022.3.31)		増減		
	金額	構成比	金額	構成比	金額	増減率	
NHK 関係業務	19,007	83.3%	17,955	84.0%	1,052	5.9%	
自主事業	3,818	16.7%	3,416	16.0%	402	11.8%	
内訳	コンテンツ制作	609	2.6%	803	3.7%	△193	△24.1%
	イベント実施	1,249	5.5%	452	2.1%	796	175.8%
	印税・権料ほか	619	2.7%	747	3.5%	△127	△17.1%
	放大等受託事業	483	2.1%	588	2.8%	△104	△17.8%
	デジタル関連	856	3.8%	824	3.9%	32	3.9%
計	22,826	100.0%	21,371	100.0%	1,454	6.8%	

※金額については、単位未満を切り捨てて表示

【NHK 関係業務】

NHK 関係業務では、定時番組等の増加により 190 億 7 百万円となり、前期の売上高と比較しますと、10 億 52 百万円増 (5.9%) の増収となりました。

<開発番組など>

今期は 50 を超えるタイトルの開発を行いました(制作本数は 130 本超)。そのうち 16 タイトルが来期の定時番組として採用されており、今後も増える見込みです。

来期に定時化する主な番組は下記の通りです。

- アイラブミー
- 偉人の年収 How much?
- とまどい社会人のビズワード講座
- 究極ガイド 2時間でまわる☆☆☆
- ヴィランの言い分
- 世界サンライズツアー
- ネイティブが使う順！英会話ランキングリッシュ(「英会話フィーリングリッシュ」)
- 漂流兄妹
- 地球は放置しても育たない
- 木村多江の、いまさらですが…
- E テレタイムマシン
- デザインあ neo
- きゃりーぱみゅぱみゅのホリデーシーズン(「えいごであそぼ Meets the World」)

- テレどーも！

<定時・特集番組>

○美術・教養分野

【定時番組】

総合では、「日曜美術館」「美の壺」は安定した人気を維持しつつ、「日曜美術館 SP ハッピーニューアーツ」や「美の壺 SP 和食」などのスペシャル版を制作しました。「アナザーストーリーズ」では難しいテーマに挑戦し、評価を高めました。「先人たちの底力 知恵泉」を制作しました。

Eテレでは、「スイッチインタビュー」が10年目を迎え、カップリングの妙が高い評価を受けています。「みんなの手話」で初のイベント・公開収録に挑戦し、ファンとのエンゲージメントを強めました。また、「NHK 短歌」が7MEN 侍の本高 克樹氏、矢花 黎氏を起用し、若い視聴者をつかみ、NHK+のUB数を伸ばしました。

【特集番組】

「生中継 復活！ 祇園祭」、「生中継 神さまのお引越し 奈良・春日大社」といった本格中継番組は、コロナ禍時代に揺れる伝統行事の貴重な記録ともなり、耳目を集めました。また、東京国立博物館創立150年の今年、「生中継！ 8K 特別内覧会 東京国立博物館のすべて」「“推し”の国宝大公開」など、記念の特集を複数展開しました。

定番となっている「ニッポン知らなかった選手権 実況中！」「奇跡のレッスン」「ねこ育ていぬ育て」「ゆったり温泉ひとり旅」などの人気特集のほか、短編番組「ねこのめ美じゅつかん」「びじゅチューン！」「おむすびニッポン」「ナンブンノイチ」「no art, no life」なども、多様な展開を行いました。ETV 特集「君がみつめたあの日のあとに」「竹花センセイ！ キミたちに語るボクのこと」といったドキュメンタリーも数多く制作しました。

展博事業と番組の新たな連携の試みとしてNHK主催「展覧会 岡本太郎」の周知を目的に「TAROMAN」(5分×10本)を制作しました。番組は後述する多様な自主事業展開のほか、キャラクターが音楽番組「わが心の大阪メロディー」にも出演するなど大反響となり、年末にはスピンオフ番組「タローマンヒストリア」(10分)も制作しました。

○趣味・実用分野

【定時番組】

総合では、「あさいち」は、「ツイQ楽ワザ」「プレミアムトーク」など人気コーナーを継続して制作しました。「サラメシ」はNHKの地域放送局と連携した「まるごと香川 SP」などで地域支援につなげたほか、テレビ70年関連「まるごと日テレ SP」も制作しました。また、新番組として「ヒロイン誕生！ ドラマチックなオンナたち」を1クール(11本)制作。

Eテレでは、「趣味どきっ！」で、囲碁将棋番組とコラボした「最短マスター！ 日本のボードゲーム 囲碁将棋」を制作。「趣味の園芸 やさいの時間」では「さすがな菜園 プランター」で子どもたちとSDGsを学びながら野菜を育てる楽しさを伝えました。「きょうの料理」では、人気のタサン志麻さんが視聴者の質問に答えるシリーズを企画、年度末に特集番組を制作するなど好評を得ました。

【特集番組】

総合では、鉄道開業 150 年関連「お宝フィルムが語る知られざるニッポン」や、「お取り寄せ不可!? 列島縦断 宝メシグランプリ 2023」「筋肉アワー」などを制作しました。

E テレでは「グレーテルのかまどスピンオフドラマⅡ」「セカゲー」などを制作しました。

BS1 では「Z ボイス 私たちの声を聞いて 18 歳 夏 参院選」「鬼が弾く 左手のピアニスト 舘野泉」「ザ・ヒューマン 和食料理人 笠原将弘 僕を育てた 愛する家族」を制作しました。

BSP では「驚き！ニッポンの底力」のほか、「家族になろうよ」では札幌拠点局からの生放送を制作し、地域支援につなげました。

BS4K では「浮世絵ミステリー」「魂・自由の味を求めて—ボキューズドール 2023 への挑戦—」などを制作しました。

○科学健康分野

【定時番組】

E テレでは、「スイエンサー」は子どもたちに身近なテーマを題材に科学的に考え、問題を解決する楽しさを、「なりきり！むーにゃん生きもの学園」は、身の回りの生きものや自然の魅力を伝えました。医学・健康番組では、「きょうの健康」や「チョイス@病気になったとき」を制作。医療分野の専門性を活かし、がんや認知症など代表的な病気だけでなく、「時間栄養学」や「美容医療」など近年注目を集めているテーマも取り上げ、信頼できる、正確な最新情報をお届けしました。

BSP では「コズミックフロント」は、流星を最新の撮影機材で撮影したり、難解な宇宙論の研究最前線をわかりやすく紹介するなど、好評を博しました。

国際放送では「Science View」や「BOSAI」、「Doctor's Insight」を制作、日本の誇る最新の科学・医学情報を海外向けに発信しました。

【特集番組】

総合では、NHK スペシャル「生きもの“超・進化論”ワールド キッズ&ティーンズ特別編」を制作、親子で楽しめる NHK スペシャルとして好評を博しました。「やまと尼寺精進日記 ひとり生きる豊穰」はEテレの番組をNHKスペシャルとして展開しました。「へんてこ生物アカデミー」や「子犬が家にやってきた！」「世界の動物園の舞台裏」などの人気シリーズ、JAXA の 13 年ぶりの宇宙飛行士選抜に密着した「選ばれるのは誰だ？ 密着 宇宙飛行士選抜試験」を制作しました。

E テレでは、身体の内側を楽しく学ぶ「バビブベボディ」を素材に小学校で授業を行った「出前授業 カラダ大冒険！」など、多様な特集番組を制作しました。

BS4Kでは「目撃！オーロラ爆発」や「マジックアワー 天空が魔法にかかる時」などを制作、圧倒的な自然の迫力や美しさを高精細な映像でお届けしました。

○教育分野

【定時番組】

E テレでは、新しい歴史教育番組「アクティブ 10 レキデリ」、若者向け番組「沼にハマってきいてみた」「モンモンZ」、NHK for School の視聴拡大のための番組「出川哲朗のクイズほお～スクール」、新学習指導要領に沿ったNHK 高校講座の新作番組「歴史総合」「地理総合」「公共」「現代の国語」「英語コミュニケーション I」「言語文化」などを制作しました。

【特集番組】

NHK for School 関連では、番組を使った授業を紹介する「オープンクラス！NHK for School がひらく新しい学び」や、多様なゲストが歴代NHK for School 番組の魅力を語る「ヒミツの!?NHK for School～じぶんかくどかわる SP」、NHK for School 番組「レキデリ」の世界観で制作した一般向け番組「歴史デリバリー」、過去の学校放送番組の思い出を語る「思い出鑑賞会～あの頃見ていた学校放送」、懐かしの学校放送番組を当時の出演者と楽しむ「チョーさんと見よう！たんけんぼくのまち」、「はりきり体育ノ介 ブレイキンに挑戦だ！」などを制作しました。このほか NHK 高校講座の認知度拡大を目指す「カズレーザー vs. NHK 高校講座」を制作しました。

また、家族ドキュメント番組「チョコットのぞき見！ファミリールール」をはじめ、「自転車旅 ユーロヴェロ 90000 キロ」「FACES～いじめをこえて」「FACES 30min.」「29 歳の同窓会 東京・ある女子校の卒業生たち」「明日をまもるナビ」など多彩なジャンルの番組を制作しました。

○語学分野

【定時番組】

E テレでは、新番組「中国語！ナビ」「ハングルッ！ナビ」を制作しました。また、「テレビで中国語」「テレビでハングル講座」をリニューアルし、コロナ禍という制約を逆に生かし、日韓をリモートで結び、韓流スター出演のスキット撮影を行うなど意欲的な演出を試みました。

語学以外では、“ことば”や“表現”を掘り下げる新たな方向性を切り開いた新番組「言葉にできない、そんな夜。」を制作しました。

R2 では、新番組として「ニュースで学ぶ『現代英語』」を制作しました。最新の英語ニュースを題材とし、直近のニュースを扱うためテキストは発売せず、「NHK ゴガク」サイトにスクリーンショットや解説を掲載しました。世界の動きを身近に感じつつ生きた英語を身につけられると好評でページアクセス数は毎週、サイト内で最多を記録しました。

【特集番組】

総合では、「レギュラー番組への道 明鏡止水～武の KAMIWAZA～」を制作。日本の武道の真髄を深く掘り下げる新機軸の演出が好評を得て、ATP 賞テレビグランプリ総務大臣賞を受賞しました。2023 年1～3月で定時化され、2023 年の定時番組として制作が決まっています。

E テレでは、ニーズが高まる小学生向け英語教育コンテンツを充実させていく試みとして、R2 で放送中の「小学生の基礎英語」をテレビ化した「小学生の基礎英語 on TV」(E

テレ)を制作しました。

○子ども幼児分野

【定時番組】

E テレでは、「おかあさんといっしょ」「いないいないばあっ!」「みいつけた!」など主要番組とともに複数の幼児番組を制作。「オハ!よ〜いどん」「でこぼこポン!」を新番組としてスタートさせました。発達障がいテーマにした「でこぼこポン!」は複数メディアに取り上げられました。

【特集番組】

E テレでは、「いないいないばあっ!」「みいつけた!」「オハ!よ〜いどん」の出演者を中心に複数の子ども幼児番組が集結する歌番組「みんな集まれ!こどもうたまつり」を制作しました。

また、「デザインあ neo」を定時番組再開のために特集として新規に開発しました。

性教育をベースにした幼児向けの“じぶん探求”番組「アイラブミー」は、アジア・テレビ賞(ATA 賞)未就学児向け番組部門最優秀賞を受賞、日本賞のファイナリストに選出されるなど国内外で高い評価を得て、2023年度からの定時化につなげました。また、番組ホームページでは、放送と連動したブログ記事を開設。保護者・保育者から大きな評価を得ています。

<8K コンテンツ>

8K シリーズ「国宝へようこそ」では、様々な国宝を高精細画質で記録し、紹介しました。高松放送局と連携した「花の若冲」シリーズは、地域サービスにも貢献しつつ、知られざる美を発掘し、貴重な映像記録コンテンツを制作しました。

8Kの超高精細で迫力ある映像を活かした特集「最強恐竜はどっちだ! 悪霊マイブ VS 鉄壁ズール」や「ダイビングトリップ ドラゴンに思いをよせて 西オーストラリアの海」、「海の地震の“声”を聴けーサイエンス ZERO 特別編ー」を制作しました。

また、「生中継 神さまのお引越し 奈良・春日大社」「生中継!8K 特別内覧会 東京国立博物館のすべて」は難易度の高い8K 中継を制作しました。

8Kの放送外利活用として下記の業務をNHKから受託しました。

- ・8K 医療応用リサーチ
- ・プラスクロス SHIBUYA「8K 異常気象シミュレーション」展示
- ・「気象庁気象研究所×8K 可視化プロジェクト」線状降水帯
- ・8K ドローン富士山防災研究

<デジタルコンテンツなど>

「NHK for School」関連の取り組みとしては、GIGA スクール構想下で、児童生徒一人ずつが持つPCを効果的に活用した授業ができるよう、先生をサポートする教材集「GIGA サポ 考える授業 やるキット」の小学5,6年生向け理科と小学4年生向け社会のコンテンツを制作しました。昨年度の取り組みと合わせて、理科および社会において小学校の学習単

元をひとつおり揃え、完結しました。

また、「ものすごい図鑑 文化財編」を NHK for School 内に新設し、国宝などの文化財の高精細映像の3DCG 化や画像加工処理により、画面内で自由に拡大、縮小、回転させ、任意の大きさ・角度で鑑賞できるインタラクティブコンテンツを制作しました。制作にあたっては NHK が持つ 8K アーカイブ映像を利用することで、制作期間の短縮と、貴重な映像資産の活用を図りました。これまでに遮光器土偶や鳥獣戯画など5つのコンテンツをリリースしました。取り上げた文化財が小中学校の教科書などに掲載されていることもあり、教育現場での学習参考資料としてこのコンテンツの利用が進んでいます。ほかにも、「多文化・多言語な子どもたちとどう学ぶ？ 学習支援のツールボックス」を制作しました。

ホームページ関連ではほかにも、NHK で放送される様々な番組の医学情報、健康情報をまとめ、発信するポータルサイト「NHK 健康チャンネル」は、週あたりの訪問者数 112 万 UB を記録。取り上げる番組、掲載する記事や動画の質・量の充実に取り組み、信頼できる医療情報源として、放送外でも広く認知されました。

「Learn Japanese from the News」はニュースを題材に日本語を学ぶ、外国人向け講座のウェブ版で、テレビ・ラジオ国際放送と連動して、ウェブサイト制作を受託しました。

「すてきにハンドメイド」では、お手本動画を番組 HP に掲載。「趣味の園芸」「趣味の園芸 やさいの時間」は 2022 年 6 月に番組ブログを開始しました。このほか「趣味の園芸 やさいの時間」では番組 HP で収録の舞台裏などの動画配信も開始しました。

NHK ラーニングへの展開として、「趣味どきっ！」では「最短マスター！日本のボードゲーム囲碁将棋」などを、「趣味の園芸 やさいの時間」でも過去の番組をクリップ化して紹介しました。

NHK アカデミアでは「宇宙物理学者 村山斉」を制作し、配信し、その後、E テレでも放送しました。

子ども幼児番組 HP「キッズワールド」を継続して受託しました。また、「にほんごであそぼ」「えいごであそぼ with Orton」などではデータ放送制作を受託しました。

SNS を活用した取り組みとして、アート関連番組の Twitter アカウント「びじゅつ委員長」に加えて、インスタグラム「びじゅつ委員長」をスタートさせました SNS をフルに活用したバラエティ番組「BAEBAE 美術館」「キュレーターバトル！！」も制作し、高い評価を得ました。

「きょうの料理」では、Twitter や LINE で情報発信を行い 2023 年 3 月現在のべ 72 万人のフォロワー（ともだち）を獲得しています。2022 年 10 月には「趣味どきっ！」が Twitter を開設し番組情報を発信しています。

配信動画の管理に NHK-DAS を用いる「NHK for School (NHK キッズ)」、「NHK ラーニング」に続き、「NHK 高校講座」も DAS で動画を管理するシステム構成に移行しました。これにより、校種・学年・サイト種別の壁が取り払われ、どのサイトからでも互いの教育系コンテンツを参照することが可能な仕組みとなり、視聴者・利用者の利便性や学習効果の向上とともに運用コストの抑制を実現、NHK の教育サービスの向上に寄与しました。

<“クロスジャンル”・社内外連携・人材育成など>

若手 PD の育成では、入社 10 年目までを主対象に所属グループの垣根を超えた番組制作を進め、多様な分野・制作手法を習得する取り組みを行いました。NHK への逆出向では、2022 年度も1名をクリエイターセンター第1制作センターに1年間派遣しました。

さらに新たな取り組みとして、入社2年目の PD を対象に、NHK 首都圏局で6か月間研修させる施策を始め、NED では機会の少ない、短期スパンの取材・制作のノウハウを学ぶ場としました。

番組などの主な成果は下記の通りです。

「提案フェス」(独自職員の育成を目的とした開発・特集番組の提案募集)から番組化。

「ザ・ガッシュク」(BSP/4K)

「世界の結婚式に参列してみました！」(BSP/4K)

「守れ！地球絶景」(BSP)

「みたてるふぉーぜ」(E)

2021 年度の「提案フェス」から生まれ、2023 年度の定時番組化。

「アイラブミー」(E)

「とまどい社会人のビズワード講座」(E)

「開発キャンプ」(独自社員2名を1年間コンテンツ戦略グループの所属とし、開発番組を OJT で提案から制作までサポートする育成制度)から番組化。

「レギュラー番組への道 超むずかしい話」(G)

「レギュラー番組への道 人間には飽きたので、野菜とデートする。」(G)

「世界ヘンテコ記念日」(BSP)

「かあちゃんの散歩道」(BSP)

NHK グループとの連携では、「みんな集まれ！こどもうたまつり」を NHK エンタープライズ(以下「NEP」)の番組と連携して制作しました。「超体験 NHK フェス」ではメタバースで「チコちゃん×ねほりんばほりん」を NEP と連携しました。

<日本賞>

NHK 主催の教育コンテンツの国際コンクール「日本賞」は、新型コロナウイルスの感染状況を考慮して、リアルとオンラインを併用した開催となりました。新たに導入した CMS による新サイトを開設し、従来、申し込みフォームが分かれていたオンライン・イベントへの参加申込やコンクール参加作品の視聴などが、一度の登録で手続きを完了できるようになりました。新サイト開設にあたっては、これまでのサイト制作・運営で得られた知見を生かした、ユーザーの利便性を高める取り組みを行い、会期期間中のイベントの成功に大きく貢献しました。

また、一次審査、本審査にこども幼児グループの独自社員2名が審査員として参加しました。

<その他>

展示・配布用の宣材「すきま時間に動画でまなぼう」パネル・カードを制作しました。
NHK プラスクロス渋谷「N スペ 超・進化論」の PR 展示を制作しました。

「超体験！NHK フェス」では、「トリセツショー」や「ヴィランの言い分」などの番組展示ブースを制作・運営しました。

NHK が公開番組の WEB 募集で使用する、応募手順の説明動画とチラシを制作しました。

2023 年度前期朝ドラ「らんまん」関連イベントとして実施するワークショップ「植物おもしろっ！～牧野富太郎に学ぶ草花観察～」用の視聴用映像やリーフレットを制作しました。

NHK の放送番組の中から、学校教育に役立つものを学校現場に無料で貸し出す NHK のサービス「NHK ティーチーズ・ライブラリー」の事務局業務を受託しました。

○主な受賞歴

アジア・テレビ賞 (Asian Television Awards) 未就学児向け番組部門 最優秀賞 受賞	「アイラブミー」(I Love “Mee”)
アジアン・アカデミー・クリエイティブ・アワード (AAA) プリスクール部門 National Winner 受賞	アイラブミー 「くすぐられるのが、じつはキライ？」 (I Love “Mee” SOME PEOPLE DON’T LIKE TIKKLES?)
2022 年度グッドデザイン賞 グッドデザイン・ベスト100 受賞	テレビ番組を中心としたコンテンツ群 [アイラブミー]
2022 年度グッドデザイン賞 グッドデザイン賞 受賞	8K データビジュアライゼーション 新型コロナウイルスの進化地図
第 16 回キッズデザイン賞 子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン部門 キッズデザイン賞 受賞	「アイラブミー」 幼児向け包括的性教育コンテンツ アプリケーション・サービス
第 38 回 ATP 賞テレビグランプリ 総務大臣賞	明鏡止水～武の KAMIWAZA～五の巻 弓馬の道・居合
第 38 回 ATP 賞テレビグランプリ ドキュメンタリー部門 優秀賞 受賞	お母ちゃんと小雁 ～認知症の喜劇役者 再び舞台へ～
第 38 回 ATP 賞テレビグランプリ 情報・バラエティ部門 優秀賞 受賞	ニッポン知らなかった選手権 実況中！ 第2回 冠動脈吻合技術競技会
第 38 回 ATP 賞テレビグランプリ ドキュメンタリー部門 奨励賞 受賞	BS1 スペシャル 五輪の厨房
第 38 回 ATP 賞テレビグランプリ ドキュメンタリー部門 奨励賞 受賞	BS1 スペシャル 福島モノローグ 完全版
第 38 回 ATP 賞テレビグランプリ 奨励新人賞	半分だけで考えてみた！
第 38 回 ATP 賞テレビグランプリ 奨励新人賞	発酵大国につぼん
第 38 回 ATP 賞テレビグランプリ 奨励新人賞	レギュラー番組への道 あつまれ！数ぼよ。 #1 吹石一恵・西垣匠/ #2 佐藤大樹・長井短
第 59 回 ギャラクシー賞 テレビ部門 奨励賞 受賞	お母ちゃんと小雁 ～認知症の喜劇役者 再び舞台へ～
第 59 回 ギャラクシー賞 テレビ部門 奨励賞 受賞	アナザーストーリーズ 運命の分岐点 「国境なき医師団は“声を上げる” ～人道支援という闘い ～」

第 64回 科学技術映像祭 教育・教養部門 部門優秀賞受賞(2023 年)	コズミックフロント 流星群 星降る夜の謎
令和 4 年度 ヤング映像クリエイターを励ます賞 優秀賞受賞	発酵大国につぼん
令和 4 年度 ヤング映像クリエイターを励ます賞 努力賞受賞	半分だけで考えてみた！

【自主事業】

当期はイベント企画・運営の増加等により 38 億 18 百万円となり、前期の売上高と比較しますと、4 億 2 百万円(11.8%)の増収となりました。

①コンテンツ制作・販売事業

ア. 市販 DVD 関連

10 月発売の「やまと尼寺精進日記」の第 2 弾「ひとり生きる豊穰」や、2 月発売の「びじゅチューン！ DVDBOOK7」など、おなじみ人気番組の DVD を制作したほか、TAROMAN DVD/Blu-ray は、美術教養分野の DVD としては驚異的な 1800 万の売上となりました。

「趣味の園芸『これ、かっこイイぜ！』」を番組初 DVD 化し、全 2 巻発売しました。また、「趣味どきっ！」で表千家の茶の湯 DVD を発売しました。

「おかあさんといっしょ」「いないいないばあっ！」「みいつけた！」などの各種 DVD を発売しました。また、「おかあさんといっしょ」のあつこお姉さん関連の「メモリアルアルバム (DVD)」「メモリアルベスト(CD)」を発売しました。小学校向け DVD 教材「プレキシ DVD」を販売しました。

イ. その他のコンテンツの制作

新たな試みとしては、NHK グループの Spotify への音声コンテンツ提供第一弾として、「びじゅチューン！」「ねほりんぱほりん」「アイラブミー」関連の音声コンテンツを制作し、Spotify に提供しました。

NHK 関連展示映像 9 本のほか、ポケモン社、江戸東京博物館、静嘉堂文庫美術館などの新規クライアントの展示映像を含む計 21 本の展示映像を制作し、制作本数はコロナ禍前に戻りました。

その他、明治安田生命からの美術館移転記録映像や、法隆寺宝物館 4K 展示映像・PR 映像などを営業や企画競争で勝ち取り、売上増につなげました。

医学・健康分野の知識や人脈を活用し、医学関連動画や記事の作成、健康検定業務などを行いました。

国立研究開発法人海洋研究開発機構(JAMSTEC)の内閣府戦略的イノベーションプログラムとして行った「革新的深海資源調査技術 研究開発」の成果紹介コンテンツを、調査に同行し、4K で作成して高い評価を得ました。

JICA と放送大学が共同制作した映像教材に世界各国向けの字幕や吹替をつける多言

語 DVD、立教学院展示館上映コンテンツ、法政大学ミュージアム展示映像などを制作しました。

神奈川県「小学生向け消費者教育教材」やつくば TIA「PR コンテンツ」などを制作しました。

図書館振興財団が WEB サイトで紹介する「図書館を使った調べる学習コンクール」のサマリーを制作しました。

東京都立立川国際中等教育学校附属小学校の独自テキスト(3、4年生用)および2年生用の英語音声コンテンツや国際交流基金共同制作「ひきだすにほんご」の多言語版、三省堂デジタル教科書映像などを制作しました。

防災関連では、東京消防庁の防災教育用 VR 映像教材「B-VR」や「地震・火山防災リテラシー教育コンテンツ」を制作しました。

東京大学が6月に発表した「ダイバーシティ&インクルージョン宣言」を国内外に周知するための映像制作を、東京大学男女共同参画室から受託しました。制作した映像は、学内のサイネージで放映されるほか全世界にネット配信されています。東京大学男女共同参画室からの継続受注を見据えながら、多様性と包摂性に関するコンテンツの制作に関する知見をさらに広げていきます。

「きょうの料理」のノウハウや人脈を活かしたコンテンツ制作を行いました。「きょうの料理」で紹介したレシピを第一生命の料理カードとして販売したほか、番組講師にレシピを開発してもらい、「チーズパンフレット」や「牛乳カレンダー」を制作しました。つきぢ田村の「田村隆さんを偲ぶ会」に「きょうの料理」映像を提供しました。サントリーウエルネス「comado アプリ」に、WEB サイト「みんなのきょうの料理～健康キッチン」動画を提供しました。

科学番組の専門性を活かし、プラネタリウムなどのコンテンツを制作しました。

日本郵政のキャラクター「ぼすくま」の YouTube 動画や KDDI ミュージアム社会科見学教材を制作しました。

森永エンゼルカレッジ WEB サイトコンテンツなどを制作しました。

「おもちゃ王国」「ファンビレッジ」などのテーマパーク施設向けに、おかあさんといっしょ新人形劇「ファンターネ！」の映像を制作しました。NHK プロモーション主催「水木しげるの妖怪百鬼夜行展」の展示映像を「てれび絵本」の映像を再編集して提供しました。

② イベント企画・実施事業

MOA 美術館、大塚国際美術館、広島局、函館局、などで年間通じて、「びじゅチューン！」のコンサートやトークイベントを行いました。また、「みんなの手話」は東京都の手話言語条例制定に関連した「手話言語フェス 2023」に参加し、手話関連の自主事業として初めてステージショーを受託。番組の公開収録と合わせて「みんなの手話×チコちゃんズスペシャルステージ」を受託し、手話と字幕による情報保障とステージ演出を両立させる知見を得ました。

「TAROMAN」関連では、「展覧会 岡本太郎」大阪・東京・愛知展に合わせて開催された「タローマンまつり」「展覧会タローマン」、3月の「超体験 NHK フェス」など NHK 本体の

視聴者リレーション活動の成功にも貢献しました。

「みんなのきょうの料理」関連では、自治体と実施するインスタライブや ZOOM イベント、さらにチーズパンフレット用に開発したレシピを披露するイベントなどを行いました。

横浜市で開催した「ローズフェア with 趣味の園芸」では、ステージ制作のほか、イベント運営や事務局業務を担うとともに、ローズウイーク関連のイベントも企画実施しました。その実績から東京都公園協会の「東京パークガーデンアワード」の運営・広報業務も受注し、イベント実施しています。

このほか、「すてきにハンドメイド」番組収録と自主イベントを組み合わせたイベントや、「趣味の園芸」では放送と連動した NHK 文化センター・オンラインセミナーなども実施しました。

「思わず『ほお〜』ってなる NHK for School 展」を3カ月間にわたり NHK プラスクロス渋谷で実施。NHK の教育コンテンツを体験してもらうことで、新しい「学び」の場を提供しました。

「健康応援フェスタ」(神戸・東京・広島)は、コロナ禍の影響が残り座席数を減らしての実施となりましたが、好評を博しました。

NHK イベント用に開発した昆虫フロア・システムを改修し「ものすごい図鑑」「恐竜を探せ！」コンテンツを制作し、「NHK for School 展(NHK プラスクロス渋谷)」のほか、全国のイベントや NHK 各放送局の会館公開で利用できるようにしました。

NED 主催の「おかあさんといっしょスペシャルステージ2022」を3年ぶりに実施しました。埼玉・大阪で開催し、計 13 万人が来場、チケットの売上額は過去最高となりました。

「ファンターネ！ がやってきた」「ワンワンまつり」などの外部主催の有料イベントのステージ制作もコロナ禍前の開催数に戻りました。

新しい医学・健康イベントの試みとして、「小児の食物アレルギー」「すい臓の病気」をフル・オンラインで実施しました。移動距離の制約を受けないオンラインの特性が功を奏し「小児の食物アレルギー」は全国から 7,400 人を超える応募者があり、最大で 4,000 人を超える人が同時に視聴しました。

また、NPO 法人学校支援協議会からシンポジウム「教育は何を目指すのか」の企画運営を受託し、ドルトン東京学園で実施しました。その模様をまとめた映像コンテンツは NHK が購入し、放送しました。

東京大学先端技術研究所から、最先端研究の現状を国内の高校生につたえるオンライン・イベントのサポート業務を受託しました。制作の受託ではなく、実際にオンライン・イベントを行う教授陣や大学生たちに、これまでの経験やノウハウを指南するという、新しい形態でした。誰もがネット配信や動画制作ができるようになったなか、効果的な教育コンテンツを制作するための「経験」に価値があることに気づかされる事業でした。

③ 印税・権利事業

「TAROMAN」については、前述の DVD をはじめ関連グッズや書籍など 40 件におよぶ多様な事業への展開をグループ連携で短期間に実現させました。DVD/Blu-ray 以外の

売り上げは 14 百万円、書籍は 3 冊目が 23 年 6 月にも発売の予定です。

「やまと尼寺 精進日記 3 ひとり生きる豊穡」は DVD だけでなく、NHK 出版から書籍も発売。販売から 5 か月で、5 刷・5,000 部(累計 65,000 部、売上 700 万円)と大ヒットを記録しました。

「きょうの料理」「趣味の園芸」「すてきにハンドメイド」などの書籍のほか、「あさいチ」定期刊行物、「趣味どきっ！」のスマホ関連書籍などの出版印税業務を行いました。また、過去制作した番組内の曲の音楽出版印税は毎年継続して売上を上げています。

東京書籍および大日本図書デジタル教科書動画を提供し、2024 年から使用される小学校教科書で本格的に使用される「QR コードコンテンツサービス」のコンテンツを、主に NHK for School から提供しました。ルネサンス高校教材を作成し提供しました。また NHK for School 関連番組の書籍化を行いました。

語学テキスト関連では「月刊語学 CD」「月刊語学ダウンロードチケット」「ポケット語学」ほかに、コンテンツを提供しました。また、シャープ、カシオの電子辞書への映像コンテンツのライセンス利用が継続しています。また、語学関連の書籍化を行いました。

「おかあさんといっしょ」の新人形劇「ファンターネ！」や「けけちゃま」関連のグッズを新規に販売しました。

④ 放送大学学園など受託事業

授業番組 23 科目を制作しました。生涯学習支援番組では「放送大学アーカイブス・知の扉」「16 番目の授業」「学位記授与式」などを制作しました。

企画競争入札では「大統合自然史第 2 部」「数理・データサイエンス・AI」などを受託しました。

⑤ デジタル関連事業

グループ経営戦略局や NEP、NED 社内各グループと連携する新しい事業スキームを開発し、外部プラットフォーム(Spotify)への番組由来音声コンテンツの提供を開始しました。

「アイラブミー」「ねほりんぱほりん」「びじゅチューン」3番組でグループ間で知見を共有しながら、放送だけでは届きにくい 20～30 代の若年層へリーチし、コアファンを増やして、放送にユーザーを還流させる流れを作りました。

「ねほりんぱほりん」はポッドキャスト全体のチャート 1 位6週連続で獲得するなど、NHK コンテンツの存在感を示しました。また、ユーザーの反応・データをもとに PDCA を回してコンテンツやサービスを提供していく、デジタル的な制作スタイルの知見・経験を社内に蓄積しました。

「アイラブミー」の取り組みは自主事業にも広がり、番組監修者と制作者による音声コンテンツのポッドキャスト配信や番組を利用した保育園や幼稚園での保育実践・保育者向け研修などに展開。番組の IP を多層的に多メディア展開させた事業・サービスが評価され、グッドデザイン賞グッドデザイン 100、キッズデザイン賞 子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン部門 特別賞審査委員長特別賞を受賞しました。

トップアスリートのインテグリティ教育に特化した JOC アスリートアプリは、2019 年から

継続受注しています。今年度、トップアスリートのキャリアサポートのためのアプリに進化させるための検討をJOCと重ねてきました。2023年度以降、アスリートの健康情報や競技実績などのデータベースと連携し、アスリートにさらにより寄り添ったサービスを構築します。

Amazon が展開する NHK こどもパークなどに、「おかあさんといっしょ」「いないいないばあ！」などの DVD 原盤再活用やイベント関連独自映像など 16 本を提供しました。

NHK 語学フレーズを活用した自社サイト「ゴガクル」の運営のほか、中学生向け独自学習サイト「基礎英語 LEAD」では新たに生徒向けの「LEAD for Students」を開発し、利用者の幅を拡大しました。また、小学校向けの英語 WEB 教材「キノサポ」を新規開発し、新たな顧客を獲得しました。

開設 15 周年を迎えたレシピサイト「みんなのきょうの料理」では、15 周年企画やサイトタイアップ企画の制作などを行い、レシピ動画の配信や、SNS での情報発信の強化などのサービスを拡充。過去最大の、年間約 6,900 万人が利用しました。

また、オンライン・イベントにも注力し、2 年目を迎えた料理家らによる福島復興支援インスタライブを 8 回実施しました。特に今年度はイベントを再編集したショート動画の SNS 展開をスタート。SNS で合計 150 万回以上再生されるなど、地域支援に資する新しい公共メディアサービスとして定着しました。

⑥ その他

「8K ゲルニカ」「8K ルーブル」の上映イベントの会場となった ICC を運営する NTT アートテクノロジー社とは、テクノロジーとアートという切り口で商談が進み、22 年度は、既存の 4K シアターの 8K 化の導入とコンサルタント業務を受託しました。23 年度以降も 8K シアターを生かしたコンテンツ上映やイベントの提案を予定しています。

農林水産省の交付金補助を得て、NED の主体事業として小学校高学年社会科向けの「農業遺産教育教材」を制作しました。それらが無償で頒布することで社会的貢献 (SDGs 活動) を行いました。

また、日本マクドナルドのデジタル教材『食育の時間+ (プラス)』を通じた、学校現場の食育授業支援活動に参加し、コンテンツ制作のほか、教育関係者への授業サポートも行っています。

東京都 Tokyo English Channel 内への NHK 映像提供および運用を受託しました。

【業務改革・環境整備など】

制作現場でも働き方改革に資する取り組みを実施しました。

例としては、生活グループでは、「毎日勤務入力チャレンジ」を 2 回、あわせて 5 か月にわたって実施し、勤務入力・承認の適正化を進めました。また、2023 年 3 月から「きょうの料理」「あさイチ」を「多様な働き方と利益率確保を両立させるパイロット番組」と位置づけ、作り方改革・働き方改革を推進する取り組みを始めました。

また、教育グループでは、高校講座ラジオ番組「数学Ⅱ」の音声素材を編集し、音声に

連動した CG 動画をほぼ自動作成する手法で「テレビ化」を実施。学校からの「ラジオ番組を映像化してほしい」という長年の要望に応えつつ、低予算で効率的な制作を実現し、NHK アーカイブスの有効利用にも貢献しました。

コストのスリム化と効果的な管理会計の導入にも取り組みました。

社員の意識改革と固定費の見直しによってコストのスリム化を進めました。パークサイド山本館および第一共同ビルから撤収し、オフィススペースの賃借料を大幅に削減しました。また IT ライセンスの運用を整理し、コストを削減しました。

効果的な管理会計の導入を推進し、利益を生みやすい企業体質への改善に向けた取り組みを進めました。勘定科目の運用を統一し、事業ごとの人件費管理の徹底を図ったほか、適正な営業利益の確保に向けた社員向け勉強会を実施しました。

2. 設備投資の状況

当期の設備投資総額は 1 億 86 百万円で、内容は以下のとおりです。

(単位:百万円)

資産の種類	取得価額	備考
有形固定資産・建物	5	テナント内装設備ほか
有形固定資産・工具器具備品	95	原盤、システム関連機器ほか
無形固定資産・ソフトウェア	86	社内システム機能追加ほか
有形・無形固定資産 計	186	

※金額については、単位未満を切り捨てて表示。

3. 資金調達の状況

前記の設備投資の資金は、自己資金で充当しています。

4. 事業譲渡・吸収分割または新設分割の状況

当社は、2023 年 3 月 1 日付けで、当社の保有する株式会社 NHK エンタープライズ、株式会社 NHK グローバルメディアサービス、株式会社 NHK プロモーション、株式会社 NHK アートの株式を、親会社である株式会社 NHK メディアホールディングスに吸収分割により承継しました。

5. 対処すべき課題

今後、NHK グループ全体の事業規模が見直されていく中、事業継続のために必要な資金を確保するために、利益構造の改善は必須と認識しています。当期の営業利益は前期比 173%増を達成しましたが、営業利益率は 2.2%であり、更なる改善が必要だと考えています。来期は管理会計の高度化を進め、全社で営業利益率の改善に取り組みます。

また、自主事業の改革も必須であり、戦略的な資源配分を行うとともに、株式会社 NHK メディアホールディングス傘下の各社との連携による相乗効果で新規事業を開発してい

ます。

これらの施策が持続可能な環境を整備するために、業務の高度化・効率化を進めて、生産性の向上と働き方改革推進の両立を図るとともに、コンプライアンスとガバナンスの再構成・強化も推進していきます。

NED のコア・コンピタンスの源泉である人材の育成も急務です。経営の強靱化に向けた人事制度改革、人材育成施策の整備を進め、これらの課題に取り組んでいきます。

6. 財産及び損益の状況の推移

項目	第 31 期 (2019 年度)	第 32 期 (2020 年度)	第 33 期 (2021 年度)	第 34 期〔当期〕 (2022 年度)
売上高 (百万円)	25,057	22,069	21,371	22,826
営業利益 (百万円)	636	633	182	498
経常利益 (百万円)	738	692	354	655
当期純利益 (百万円)	483	454	226	978
1株当たり当期純利益 (千円)	241	227	113	493
総資産 (百万円)	10,419	10,966	10,908	11,423
純資産 (百万円)	6,376	6,526	6,458	6,736
1株当たり純資産 (千円)	3,188	3,263	3,229	3,526

※金額については、単位未満を切り捨てて表示。

7. 重要な親会社の状況

(1) 親会社との関係

当社の親会社は、2022年12月1日に設立された株式会社NHKメディアホールディングスであり、2023年3月より当社の株式1,910株を保有することになりました。これは当社の議決権の100%にあたります。

なお、株式会社NHKメディアホールディングスは、日本放送協会の子会社にあたることから、当社は同協会の放送法上の子会社であります。

当社は、日本放送協会の委託による放送番組の制作、これらに関連する業務、同協会が制作した番組の利用権の購入などを行っております。

(2) 親会社等との間の取引に関する事項

当社は、日本放送協会との取引について、事前に定めた取引基準により、一般に公正かつ妥当な取引条件で実施しております。当社取締役会は、これらの取引が当社の利益に害するものではないと判断しております。

8. 主要な事業内容

- (1) 放送番組などの企画、制作、購入
- (2) ホームページ作成などデジタル関連業務
- (3) 幅広い世代を対象にした教育、教養コンテンツの制作・販売
- (4) イベント・シンポジウムなどの企画・実施
- (5) 各種権利ビジネスや編集・出版関連業務
- (6) 放送大学関連番組の制作

9. 主要な事業所

本社 東京都渋谷区宇田川町7番13号 第二共同ビル

内部監査部

コンテンツ制作開発センター(美術教養、生活、科学健康、教育、語学、こども幼児、事業推進、デジタル推進、コンテンツ戦略 各グループ)

経営戦略センター(総務DX、人事育成、財務、経営企画 各グループ)

10. 従業員の状況

従業員数	前期末比増減数
280名	3名減

<内訳>

区分	転籍者	出向者	社員	契約社員	計
男	53	72	39	10	174
女	7	35	63	1	106
計	60	107	102	11	280

11. 主要な借入先

該当事項はありません。

II 会社の株式に関する事項

1. 発行可能株式総数 8,000 株
2. 発行済株式の総数 1,910 株(自己株式 90 株を除く)
3. 株主数 1 名
4. 株主の状況

株主名	当社への出資状況	
	持株数	持株比率
株式会社NHKメディアホールディングス	1,910 株	100%

III 会社の役員に関する事項

1. 取締役及び監査役の氏名など

2023年3月31日時点

地位	担当	氏名	重要な兼職の状況
代表取締役社長		荒木 美弥子	
常務取締役	コンテンツ制作開発センター	馬場 広大	
常務取締役	経営戦略センター	寺井 友秀	
取締役	コンテンツ制作開発センター	喜安 政幸	NHK コスモメディアヨーロッパ 取締役
監査役		板垣 雄士	板垣雄士公認会計士事務所 公認会計士
監査役(非常勤)		野呂 従道	日本放送協会 内部監査室監査部専任部長

(注) 取締役及び監査役の異動は、次のとおりです。

1. 就任 2022年6月24日付で、荒木美弥子氏が代表取締役社長に就任しました。
2022年6月24日付で、馬場広大氏が常務取締役に、寺井友秀氏が常務取締役に、喜安政幸氏が取締役に、上杉寿理氏が取締役(非常勤)に就任しました。なお土井成紀氏は取締役(非常勤)に、矢吹寿秀氏は取締役(非常勤)にそれぞれ再選され、就任しました。2022年6月24日付で、野呂従道氏が監査役(非常勤)に就任しました。
2. 退任 2022年6月24日付で、田波宏視氏が代表取締役社長を、川野芳水氏が専務取締役に、加藤潔行氏が常務取締役に、手島雅彦氏が取締役に、白川友之氏が取締役(非常勤)を退任しました。2022年6月24日付で、潮田敦氏が監査役(非常勤)を辞任しました。2022年12月1日付で、土井成紀氏が取締役(非常勤)を、矢吹寿秀氏が取締役(非常勤)を、上杉寿理氏が取締役(非常勤)を辞任しました。2023年4月23日付で、馬場広大氏が常務取締役に辞任しました。

2. 取締役及び監査役に支払った報酬などの総額

役員の区分	報酬の総額	報酬などの種類別の総額		対象となる 役員数(人)
		定額部分	変動部分	
取締役 (社外役員を除く)	73,518 千円	52,110 千円	21,408 千円	8 人
監査役 (社外役員を除く)	—	—	—	—
社外役員	8,760 千円	8,760 千円	—	1 人

(注)1.当事業年度末の人員数は、取締役4名、監査役2名ですが、監査役1名は無報酬であり、上記人員には含まれておりません。

IV 業務の適正を確保するための体制

1. 取締役および使用人の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制

- (1) 当社は取締役、社員を含めた行動規範として、「NED 倫理・行動憲章」と「行動指針」を定め、これらの遵守を図る。
- (2) リスクマネジメントおよびコンプライアンスを維持運営および推進するため、社長を委員長とする「リスクマネジメント委員会」を設置し、その下に事務局(業務相談窓口)を設置する。また、各部にリスクマネジメント推進担当者、コンプライアンス推進担当者を置き、全社的に法令遵守が確保される体制をとる。
- (3) 取締役および使用人のコンプライアンスの徹底を図るため、「コンプライアンス通報窓口(内部窓口、グループ通報窓口)」、「ハラスメント相談窓口」「ハラスメント電話相談窓口」を設置し、社内に効果的に周知し、適宜、法令等の遵守状況をモニタリングする。また、「インサイダー取引防止規程」を定め、取締役および使用人によるインサイダー取引を禁止している。
- (4) 取締役会については、「株式会社 NHK エデュケーショナル取締役会規則」を定め、その適切な運営を確保し、定例で開催するほか必要に応じて随時開催し、取締役間の意思疎通を図るとともに相互に業務執行を監督し、法令・定款違反行為を未然に防止する。万一、取締役が他の取締役の法令・定款違反行為を発見した場合は直ちに監査役および取締役会に報告するなどして、その徹底を図る。
- (5) 執行役員については「執行役員制度規程」を遵守し、職務執行の法令・定款への適合を確保する。
- (6) 監査役は、取締役の職務執行、経営機能に対する監督強化を図る。
- (7) コンプライアンス関連の研修、社内通達等による啓発、社員総会などによる意識づけに努め、全社的な法令遵守の一層の推進を図るとともに、「稟議規程」等の適正な運用により、取締役の職務執行の透明性を確保する。

2. 取締役の職務の執行に係わる情報の保存および管理に関する体制

- (1) 「文書管理規程」により、資料等の扱いを明文化し、取締役の職務の執行に係る情報の保存および管理に適正を期す。

- (2)「株主総会議事録」「取締役会議事録」「役員会議事録」については、「文書管理規程」に基づいて適切かつ確実に保存・保管し、「役員会議事録」については、取締役及び監査役が常に閲覧可能な状態に置く。
- (3)「情報管理規程」に基づき、役員社員等が業務上取り扱う情報について、適切な管理・運用を行う。

3. 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

- (1) 当社は、当社の業務に係るリスクとして、投資的リスク、下請法等法令違反につながるリスク、企業機密への不正アクセス・漏洩等情報セキュリティ的リスクなどを認識し、信用調査、対応マニュアルなどを整備する。また、公共放送 NHK の関連団体グループの一員として、公金の扱いについては特に厳正を期し、万が一にも社会的な指弾を受けることのないよう注意を払う。
- (2) リスクマネジメント推進責任者を代表取締役社長とし、リスク管理体制の整備・運用にあたる。
- (3) 内部監査部を設置し、各部門のリスク管理状況を監査し、定期的に取り締役会および監査役に報告する。
- (4) 危機管理と予防的管理についての体制を充実し、研修などを含め、損失の危険の管理について全社的な認識向上を図る。

4. 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

- (1) 職務分掌に関する諸規程を定め、取締役および各部門の所管と権限を明確にし、経営に関する意思決定および職務遂行を効率的かつ適正に行う。
- (2) 重要な意思決定については、常勤取締役等による役員会などにより多面的に検討し、慎重に決定する仕組みを設ける。
- (3) 中期経営計画およびそれを受けた年度事業計画を策定し、事業ごとの目標値を設定し、業績を把握し、適宜見直しを行う。
- (4) さらに効率的に職務を執行するために、内部統制との関係を考慮しつつ、案件に応じた職務権限の委譲を検討する。

5. 会社並びにその親会社および子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

- (1) NHK の子会社等の事業が適切に行われることを目的として、「関連団体運営基準」により、事業運営およびこれに対する NHK の指導・監督等に関する基本的事項が定められており、当社も該当している。
- (2) NHK は、「関連団体運営基準」に関する事項および NHK が指定する事項について、監査法人等に委嘱して関連団体の業務監査を実施し、監査法人等の報告に基づき、関連団体に対し必要な指導・監督を行っており、当社も該当している。
- (3) NHK の監査委員が当社に対し営業の報告を求め、または業務および財産の状況を調査する場合には、当社は、適切な対応を行う。
- (4) NHK は、全国民の基盤に立つ公共放送の機関として、不偏不党の立場を守って、放

送による言論と表現の自由を確保し、豊かで、良い放送を行うことを目的とした法人である。また、放送法により、NHK に対する公共的規制は、国民の代表である国会を中心として行われ、毎年度の予算・事業計画は国会での承認を要している。NHK には、経営方針その他その業務の運営に関する重要事項を決定する権限と責任を有する経営委員会が設置され、会長等による業務の執行と監督の機能とが明確に分離され、適正なガバナンスが確保されており、業務の実施にあたっては、「NHK 倫理・行動憲章」の策定、「通報・相談窓口」の整備などにより、適正が確保されていると理解している。

6. 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項、当該使用人の取締役からの独立性に関する事項および当該使用人に対する指示の実効性の確保に関する事項

(1) 監査役からの求めがあった場合には、監査役の職務を補助すべき使用人として、当社社員から監査役補助者を任命する。

(2) 監査役の職務を補助する部署を経営戦略センターとする。

(3) 監査役より監査業務に必要な命令を受けた経営戦略センター社員は、その命令に関して、取締役、経営戦略センター統括部長等の指揮命令をうけない。

7. 取締役および使用人が監査役に報告をするための体制および報告をした者が当該報告をしたことを理由として不利益な取扱いを受けないことを確保するための体制

(1) 取締役または使用人は、法定の事項に加え、当社に重大な影響を及ぼす事項の内容を、監査役にそのつど報告するものとする。

(2) 監査役は、いつでも必要に応じて、取締役および使用人に対して報告を求めることができる。

(3) 当社は、監査役に報告をした者に対して、その報告を行ったことを理由として不利益な取扱いを行うことを禁止する。

8. 監査役の職務の執行について生ずる費用の前払い等に係わる方針に関する事項、およびその他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

(1) 監査役からその職務の執行について生ずる費用の前払い、負担した債務の弁済等の請求があったときは、当該請求に係わる費用または債務が、監査役の職務の執行に必要なでない場合を除き、当該費用または債務を処理する。

(2) 監査役は、重要な会議に出席するとともに、議事録が作成された場合は、その事務局はこれを監査役に送付する。

(3) 内部監査部の行う監査の結果とその改善状況は、監査役にも報告されるものとし、監査役と内部監査部の間で定期的な情報交換を行う。

【業務の適正を確保するための体制の運用状況の概要】

当社の取締役会は、取締役 4 名で構成されており、2 名の監査役（うち、非常勤監査役 1 名）も出席し、業務執行状況の報告が行われるとともに重要事項の審議・決議を行っています。

また、常勤監査役は、取締役会のほか役員会等の社内の重要会議に出席するとともに、資料の査閲、取締役からの直接聴取を行い、業務執行の状況や内部統制、コンプライアンスに関する問題点を監視する体制を整備しており、経営監視機能の強化および向上を図っています。

コンプライアンスに関する取り組みの状況では、社長を委員長とする「リスクマネジメント委員会」を毎月開催し、コンプライアンスやリスクマネジメントに関する報告や決定を行っています。

また、「NED リスクマネジメントハンドブック」については、社内ポータル内に、視認性を高め、必要な情報にアクセスしやすい、実用性の高いレイアウト（「リスクマネジメント」）を整備し、随時更新を行っています。全社員等を対象とした研修活動も定期的に実施しコンプライアンスの周知徹底を図っています。当社の内部監査部門では、年度ごとの内部監査計画に基づき業務の点検と提言を行っています。

【業務の適正を確保するための体制の評価】

全社的な内部統制について、「統制環境」「リスクの評価と対応」「統制活動」「情報と伝達」「モニタリング」「IT への対応」という 6 つの観点から評価し、整備状況および運用状況の有効性を確かめました。

また、業務上の重要なリスクを分析・抽出した上で、全社を対象とするテーマ監査、フォローアップ監査などを行い、必要な対応（内部統制）が取られているかどうかを確かめました。

その結果、2023 年 3 月 31 日時点における当社の内部統制は、おおむね有効であると判断しました。



**NHK EDUCATIONAL
CORPORATION**